第六次白石市総合計画に係る成果指標について

角張　大治



〔質問〕成果指標には、事業の実施量を示す「アウトプット指標」（例：「講座を何回開催したか」「何人が参加したか」など）と、取り組みの結果として生じた変化や効果を示す「アウトカム指標」（例：「講座を受けたことで、参加者の理解度が向上した」「生活習慣病の重症化率が低下した」など）がある。成果を適切に評価するには、目指すゴールから指標を設定することが重要である。

**　第六次白石市総合計画の成果指標に両者が混在していることについて、見直しに際してゴール設定を統一しなかった理由を伺う。**

〔答弁〕【未来戦略課長】アウトプットおよびアウトカム指標の特徴を踏まえ、適切に設定することで計画の実効性を高めることが重要であるという考えから、統一のゴール設定は行なっていない。

〔質問〕指標や成果設定はアウトカム指標を基本とすべきと考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕【市長】アウトカム指標には外部要因の影響や成果が現れるまでの時間など実務上の課題があるため、アウトカム指標を活用しつつ、行政が把握できるアウトプット指標も適切に組み込む。

〔質問〕基本計画に位置づけられた成果指標の重要性について、市の認識を伺う。

〔答弁〕【未来戦略課長】限られた資源を最適化し、総合計画の目標実現に向けて取り組む上で、成果指標は重要であるとの認識である。

〔質問〕基本計画に成果指標が位置づけられており、白石市議会基本条例第15条では基本計画を議決事項としている。今回の成果指標の見直しが基本計画の変更に当たるのか、議案として提案する予定があるのかを伺う。

〔答弁〕【市長】成果指標の見直しは計画の根幹に関わる変更ではないため、議案として提案は考えていない。

【その他の質問】

◎指標・目標値の適正性について

◎第六次白石市総合計画の基本計画について

本市の公共交通の現状について

佐藤　龍彦



〔質問〕本市の公共交通空白地域についての認識を伺う。

〔答弁〕【まちづくり推進課長】乗合タクシー、市民バス、ミヤコーバス、ＪＲ東北本線などの既存の公共交通ではカバーできない地域が存在しており、本市に公共交通空白地域が存在することは認識している。なお、公共交通空白地域の解消に向けた取り組みとしては、山間部など、既存の公共交通ではカバーできない地域において、新たな移動手段・外出サービスの確保を図るため「人と地域が輝く未来共創交付金」により、住民主体の地域内交通の導入や、課題解決に向けた活動を支援している。

〔質問〕小原地区と白川地区の地域内交通の利用実績および進捗状況を伺う。

〔答弁〕【まちづくり推進課長】小原地区では、令和7年度末現在利用登録者が36人、実際の利用者が延べ76人である。実証実験を開始した令和6年1月からの累計では、延べ181人に利用されている。白川地区では、令和7年度から実証実験を開始し、2回実施したところ延べ8人が利用したと聞いている。本年度も実証実験を継続しており、地域内での安定した協力体制の構築や課題の洗い出しなどを行なっている状況である。

〔質問〕小・中学校の周辺や利用実績の多いバス停などに夏の暑さや雨風をしのぐための屋根等を設置できないか伺う。

〔答弁〕【まちづくり推進課長】小・中学校周辺のバス停については、基本的に通学する生徒が市民バスを利用する場合、学校側で登下校時間に配慮していると、教育委員会から聞いている。そのため、バス停で長時間バスを待つような状況にないと認識している。また、利用者の多い城下広場や白石駅、白石蔵王駅、公立刈田綜合病院のバス停には、いずれも待合所や屋根を設置している。今後利用実績の変化や、新たにバス停を設置する場合には、必要に応じて環境整備を行なっていく。

二次元コードから各議員の質問動画へアクセスできます。